

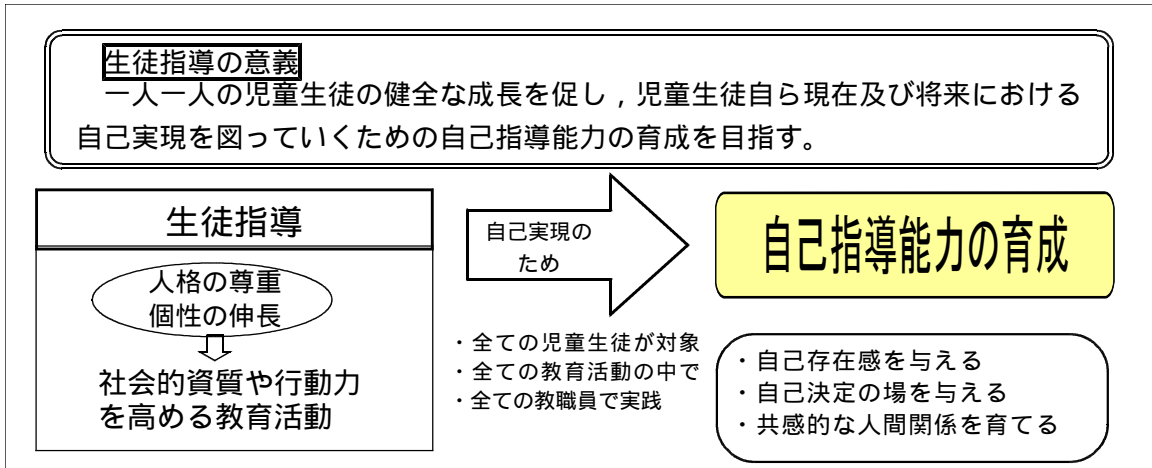
教育相談課の研究

〔 研究 主 題 〕

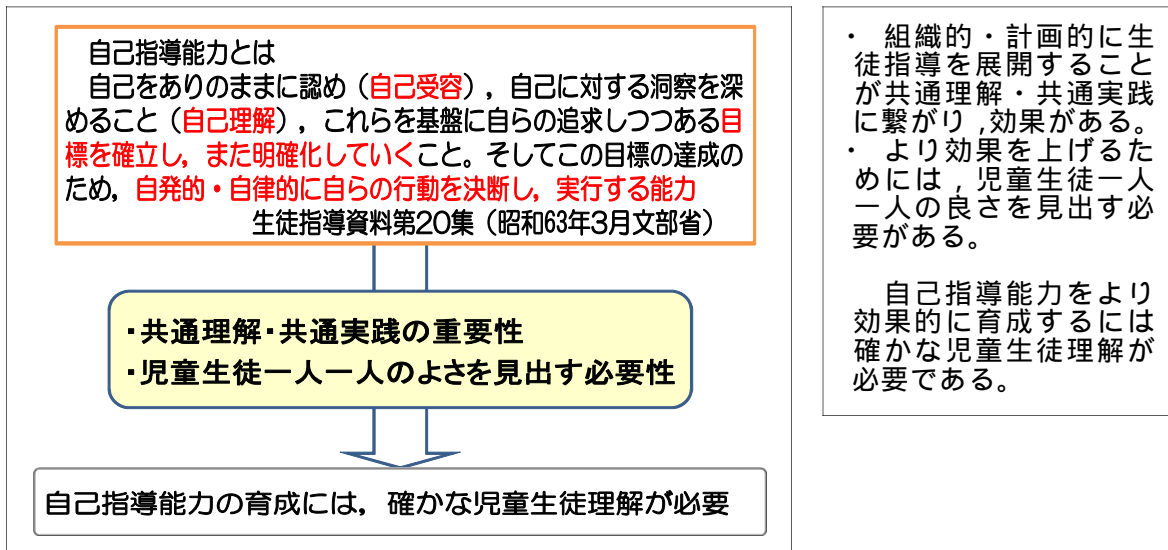
自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方に関する研究
～「学校楽しいーと」を活用した効果的な働き掛けを通して～

1 自己指導能力の育成に向けた生徒指導の基本的な考え方

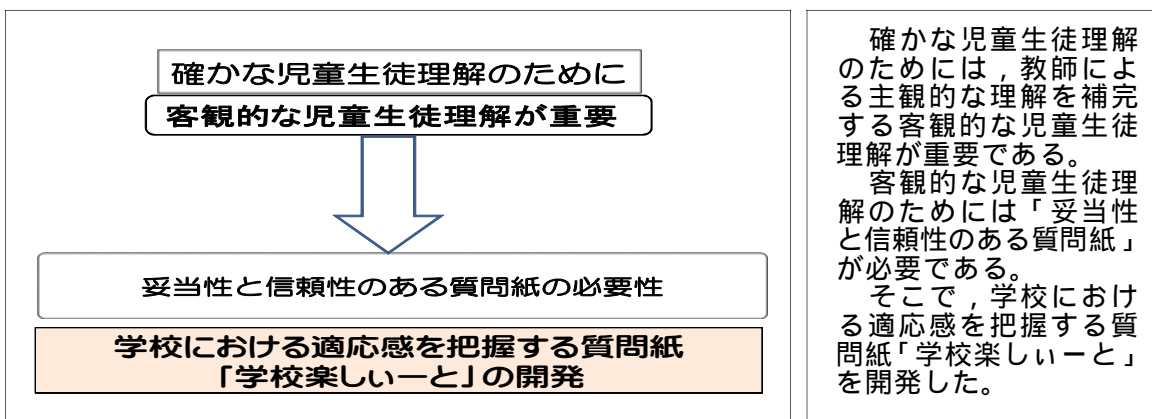
(1) 自己指導能力の育成に向けた生徒指導



(2) 自己指導能力の育成に向けた児童生徒理解



(3) 「学校楽しいーと」作成の意図



2 本県の「学校楽しいーと」による実態調査

(1) 実態調査について

【調査目的】 「自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方」について研究の基礎資料とするため、「学校楽しいーと」を用いた質問紙調査を実施し、「学校楽しいーと」を構成する各観点について分布，平均値を示す。

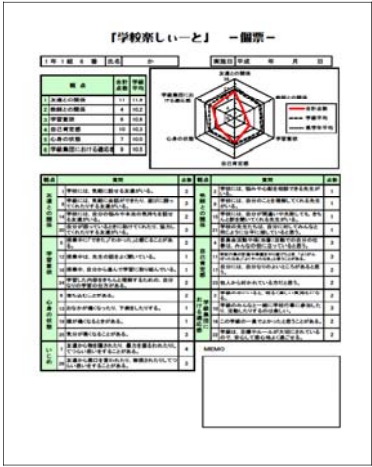
【調査内容】 「友達との関係」,「教師との関係」,「学習意欲」,「自己肯定感」,「心身の状態」,「学級集団における適応感」,「いじめに関する質問」

【調査対象】 公立小学校34校，公立中学校16校，公立高等学校5校
(全県下公立小・中・高の5%以上に当たる学校・人数について学校規模を考慮して抽出した。)

【調査期間】 平成23年11月から12月まで

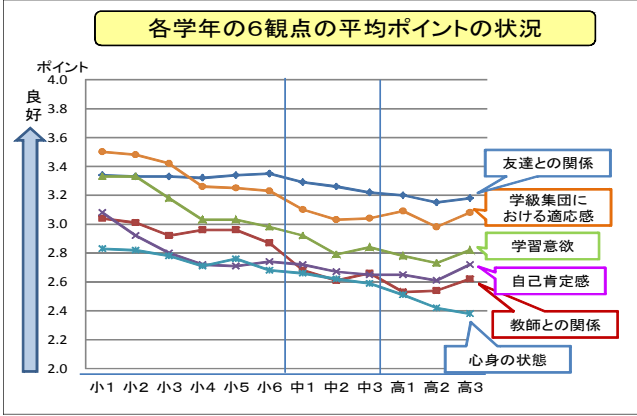


「学校楽しいーと」表紙



「学校楽しいーと」個票

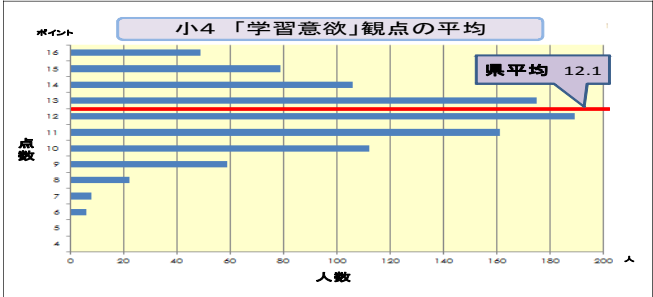
(2) 各学年の6観点の平均ポイントの状況



6 観点の平均ポイントの状況結果

- ・ 高いポイントほど，望ましい状態を表す。
- ・ 全ての観点において，発達の段階に応じて違いがある。
- ・ 学年が上がるに従って，ポイントが下降傾向にある。

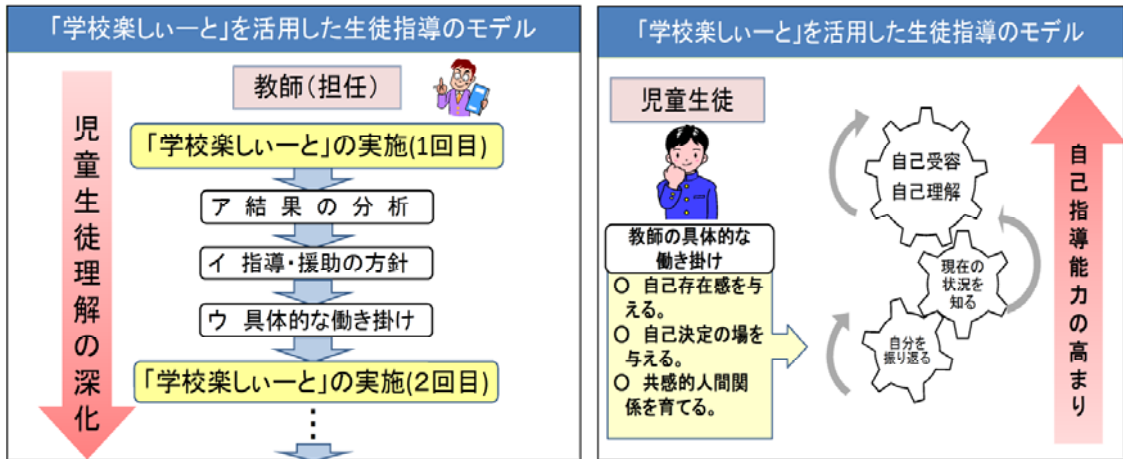
(3) 県の分布



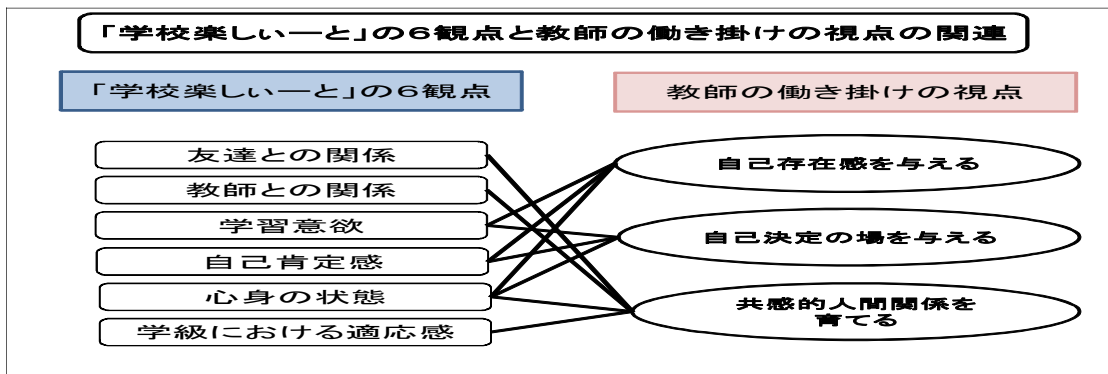
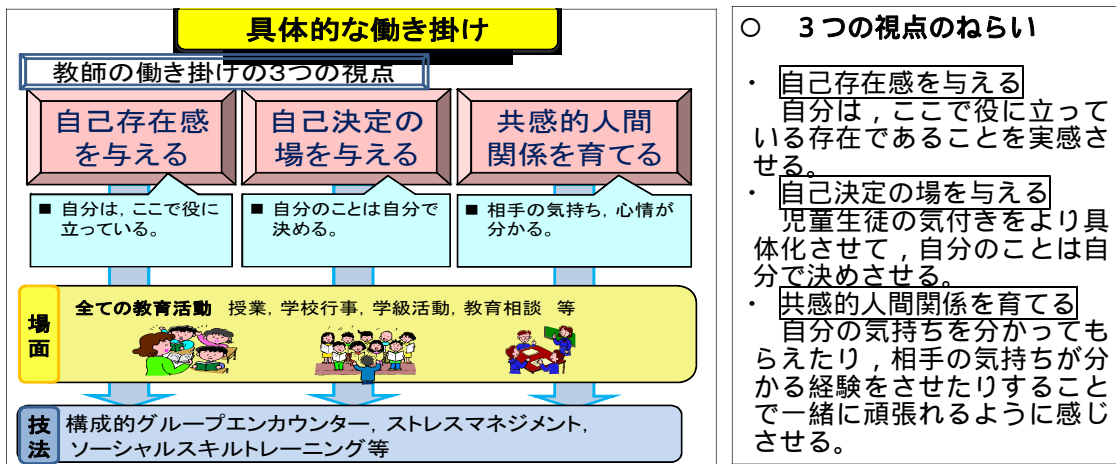
県の分布との比較
1学年に1学級しかなく，同学年に比較する対象のない学校においては，県の平均の分布と見比べることで，学級の様子を知ることができる。

3 「学校楽しいーと」の活用の在り方

(1) 「学校楽しいーと」を活用した生徒指導のモデル

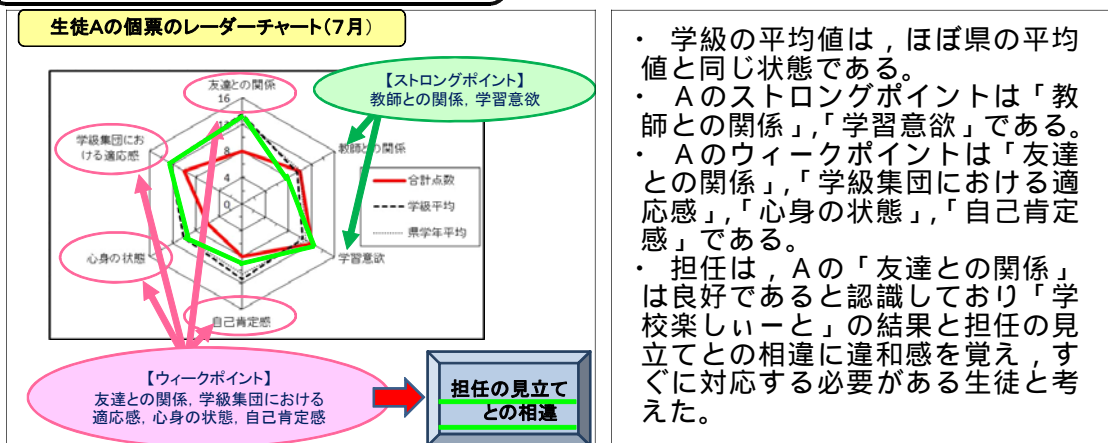


(2) 教師の働き掛けの視点

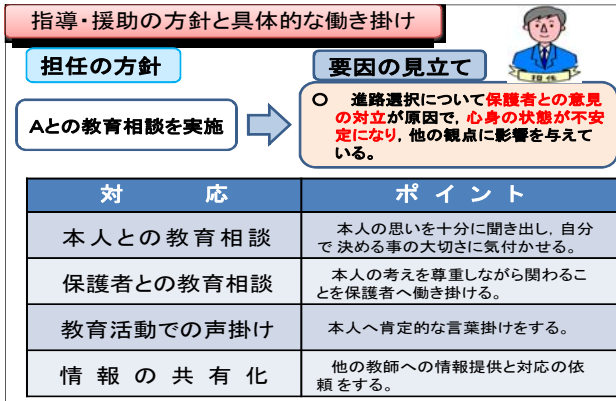


4 「学校楽しいーと」を活用した個への働き掛けの実践例

高校1年生Aの状態(結果の分析)

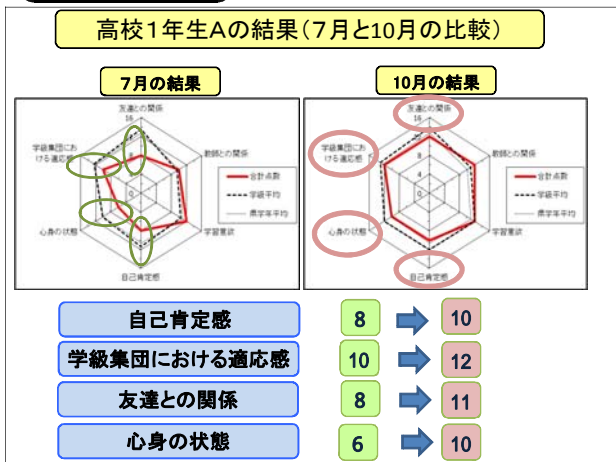


生徒 A への指導の方針と具体的な働き掛け



Aのストロングポイント「教師との関係」を生かし、担任による教育相談を実施した。その中で、担任は「Aが進路選択について保護者との意見の対立があり、不安定な心身の状態であること」を見立てた。そこで、本人や保護者との対応として、4点を考えた。

生徒 A の変容

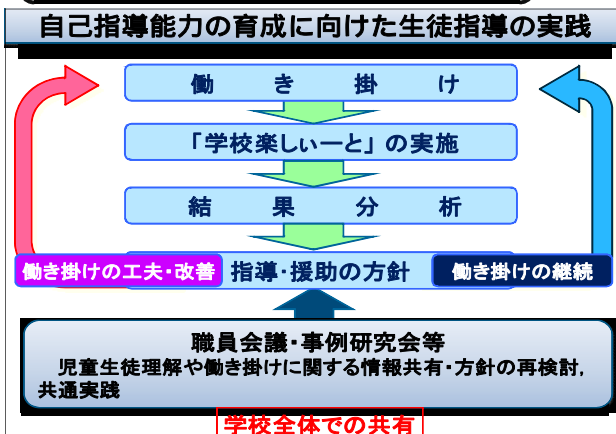


「学校楽しいーと」2回目実施
1回目の結果と比較した。

- ・「自己肯定感」
8ポイント 10ポイント
- ・「学級集団における適応感」
10ポイント 12ポイント
- ・「友達との関係」
8ポイント 11ポイント
- ・「心身の状態」
6ポイント 10ポイント

Aの表情は明るくなり、友達と楽しく会話する光景が見られるようになってきた。

「学校楽しいーと」の効果的な活用



- ・「学校楽しいーと」は、気になる児童生徒の個人への対応に有効だが、学級や学年または、学校全体で実施すると、より効果的な指導・援助につながる。
- ・「どんな働き掛けが良かったのか」を分析し、職員会議や事例研究会等で、情報を提供することにより、効果的な働き掛けを学校全体で共有することができる。
- ・自己指導能力の育成には、学校全体で組織的に生徒指導を推進することが重要である。

5 研究の成果と今後の課題

- < 研究の成果 >
- 自己指導能力の育成のための
- ・ 「学校楽しいーと」の提供
 - ・ 「学校楽しいーと」による本県の平均値の提示
 - ・ 「学校楽しいーと」を活用した働き掛けの具体例の提供
- < 今後の課題 >
- ・ 各校種の学校からのデータをより多く収集、蓄積
 - ・ 「学校楽しいーと」の校種間連携の有効活用

「学校楽しいーと、学級・学年シート、分布のヒストグラム」は、教育センターWebページからダウンロードできます。(カリキュラムセンター 生徒指導) <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/seise/top.html>

【平成24年度調査研究発表会】
全体会研究発表

＜平成23・24年度＞
自己指導能力の育成に向けた
生徒指導の在り方に関する研究
～「学校楽しいーと」を活用した
効果的な働き掛けを通して～

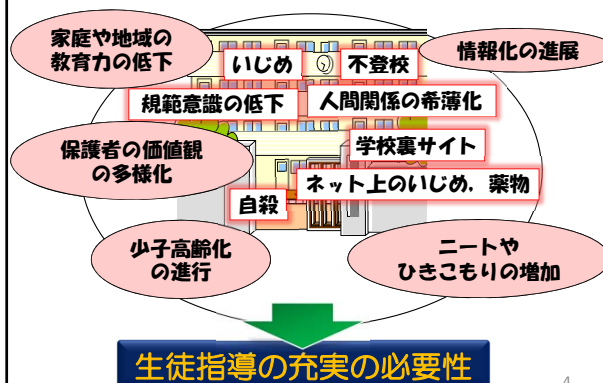
 鹿兒島県総合教育センター

発表内容

- I 研究主題設定の理由
- II 「学校楽しいーと」の概要及び実態調査結果
- III 「学校楽しいーと」を活用した生徒指導のモデル
- IV 個への働き掛けの実践例
- V 成果と課題

I 研究主題設定の理由

児童生徒や学校を取り巻く状況



これまでの調査研究の取組

平成21・22年度

自己指導能力の育成に向けた
組織的・計画的な生徒指導の在り方

自己指導能力とは
自己をありのままに認める（自己受容）、自己に対する洞察を深めること（自己理解）、これらを基盤に自らの追求しつづめる目標を確立し、また明確化していくこと。そしてこの目標の達成のため、自発的・自律的に自らの行動を判断し、実行する能力
生徒指導資料第20集（昭和63年3月文部省）

- ・共通理解・共通実践の重要性
- ・児童生徒一人一人のよさを見出す必要性

自己指導能力の育成には、確かな児童生徒理解が必要

研究主題設定の理由

確かな児童生徒理解のために

客観的な児童生徒理解が重要



妥当性と信頼性のある質問紙の必要性

学校における適応感を把握する質問紙「学校楽しいーと」の開発

「学校楽しいーと」の活用

指導・援助への生かし方

自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方に関する
～「学校楽しいーと」を活用した効果的な働き掛けを通して～

II 「学校楽しいーと」の概要及び実態調査結果

「学校楽しいーと」の種類、質問項目

【質問紙の種類】

- ① 小学生用（1～3年生用）
- ② 小学生用（4～6年生用）
- ③ 中学生用
- ④ 高校生用

【質問項目】

- ① 友達との関係
- ② 教師との関係
- ③ 学習意欲
- ④ 自己肯定感
- ⑤ 心身の状態
- ⑥ 学級集団における適応感

各4問（計24問）

□ いじめに関する項目（2問）

合計26問

「学校楽しいーと」の質問紙

1 学校には、気軽に話せる友達がいる。
たつきんいる 4 ———— 3 ———— 2 ———— 1
あまりいない 全くない

2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。
たつきんいる 4 ———— 3 ———— 2 ———— 1
あまりいない 全くない

3 学級の中になると、明るく楽しい気持ちになる。
とてもそう思う 4 ———— 3 ———— 2 ———— 1
そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

4 委員会活動や係（当番）活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。
とてもそう思う 4 ———— 3 ———— 2 ———— 1
そう思う あまりそう思わない 全くそう思わない

5 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。
よくある 4 ———— 3 ———— 2 ———— 1
ある あまりない 全くない

6 落ち込むことがある。
よくある 4 ———— 3 ———— 2 ———— 1
ある あまりない 全くない

6つの観点

友達との関係

教師との関係

学級集団における適応感

自己肯定感

学習意欲

心身の状態

逆転項目

入力方法について

入力シート

下の欄に、回答を入力してください。
(例) 4444444 3333333 2222222 11111

性別は、男→1 女→2 を入力してください。

学年	氏名	性別	入力欄												
			1～7	8～14	15～21	22～26	1	2	3	4	5	6			
1	あ	1	4333421	4443424	4423144	33321	1	あ	1	4	3	3	3	4	3
2	い	1	2322241	3312132	2222333	22232	2	い	1	2	3	2	2	2	1
3	う	1	3333441	2233333	3333441	22333	3	う	1	3	3	3	3	4	1
4	え	1	1122334	1313314	2332323	32324	4	え	1	1	1	2	2	3	2
5	お	1	2221234	2221321	2222322	12223	5	お	1	2	2	2	1	2	2
6	か	2	3123231	3133142	1221431	22222	6	か	2	3	1	2	3	2	2
7	き	2	4124341	3312414	4431444	44414	7	き	2	4	1	2	4	3	1
8	く	2	4332333	2343232	3332343	31234	8	く	2	4	3	3	2	3	2
9	け	2	4233321	4333423	3333233	34211	9	け	2	4	2	3	3	3	3
10	こ	2	4233321	4333423	3333233	33222	10	こ	2	4	2	3	3	3	3
11							11								
12							12								
13							13								
14							14								

氏名 性別番号

入力方法について

入力部分の拡大

2	4233321	4333423
2	4233321	4333423

児童生徒が回答した数字を入力します

入力した数字が反映される

「学校楽しいーと」個票

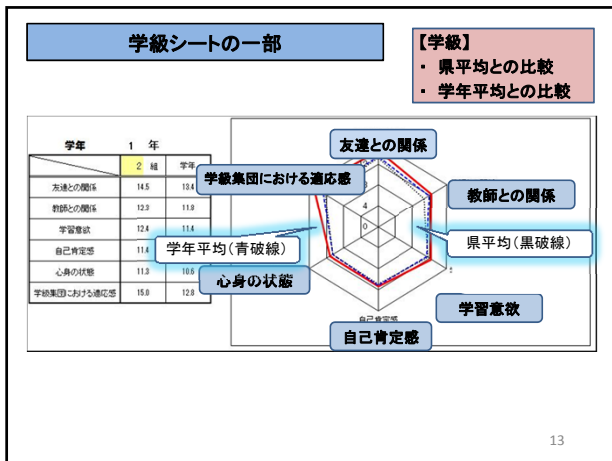
【個人】
・ 県平均や学級平均との比較

観点	合計点数	学級平均
1 友達との関係	14	14.0
2 教師との関係	10	10.0
3 学習意欲	14	14.0
4 自己肯定感		
5 心身の状態		
6 学級集団における適応感		

心身の状態 学習意欲

ウィークポイント ストロングポイント

観点	質問	観点	質問	観点	質問
友達との関係	1 学校には、気軽に話せる友達がいる。	教師との関係	2 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	学習意欲	3 学校には、自分が勉強してやる先生がいる。
教師との関係	8 学校には、気軽に話せる先生がいます。	自己肯定感	9 学校には、自分が頑張っている先生がいます。	心身の状態	10 学校には、自分が頑張っている先生がいます。
学級集団における適応感	14 学校には、自分の悩みや本音の気持ちを話せる友達がいます。	学級集団における適応感	15 学校には、自分が頑張っている先生がいます。	学級集団における適応感	30 自分が頑張っている先生がいます。
自己肯定感	9 委員会活動や係（当番）活動での自分の仕事は、みんなの役に立っていると思う。	自己肯定感	4 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。	自己肯定感	4 授業中に「できた」「わかった」と感じることがある。



調査の目的

「自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方」について研究の基礎資料とするため、「学校楽しいと」を用いた質問紙調査を実施し、「学校楽しいと」を構成する各観点についての分布、平均値を示す。

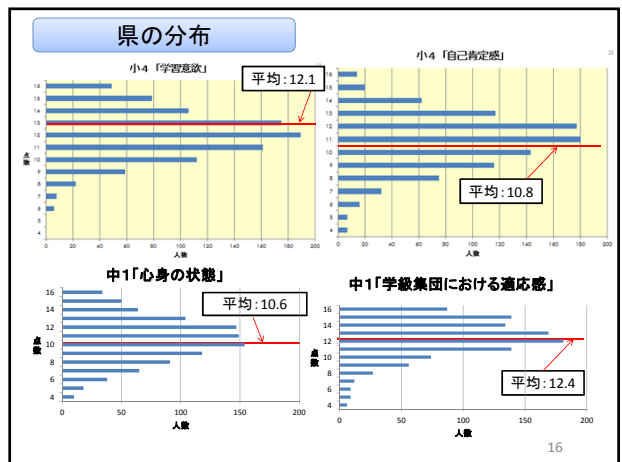
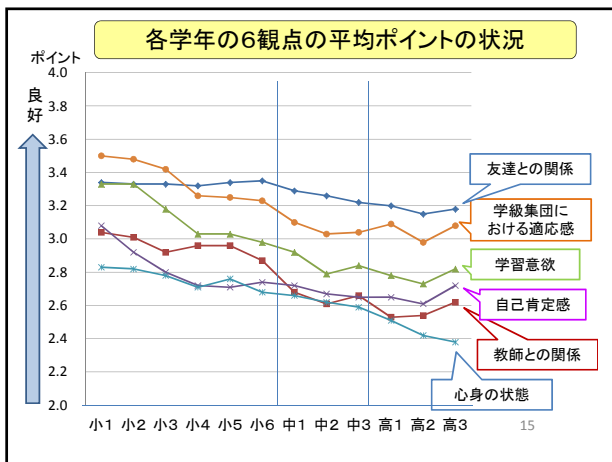
調査対象

区分	小学校	中学校	高等学校	合計
調査対象校	34校	16校	5校	55校
調査対象者	6,617人	3,141人	3,050人	12,808人

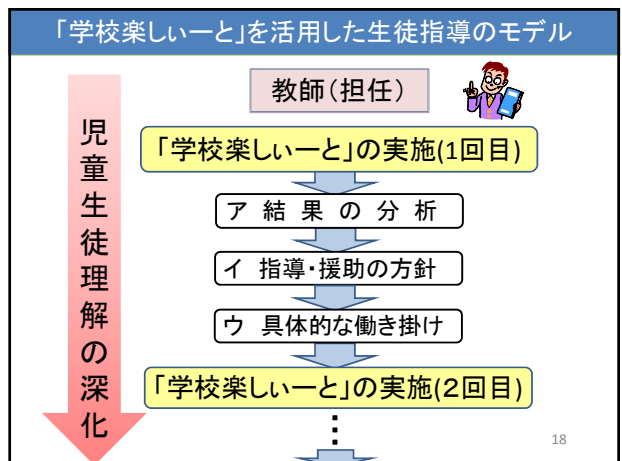
実施時期

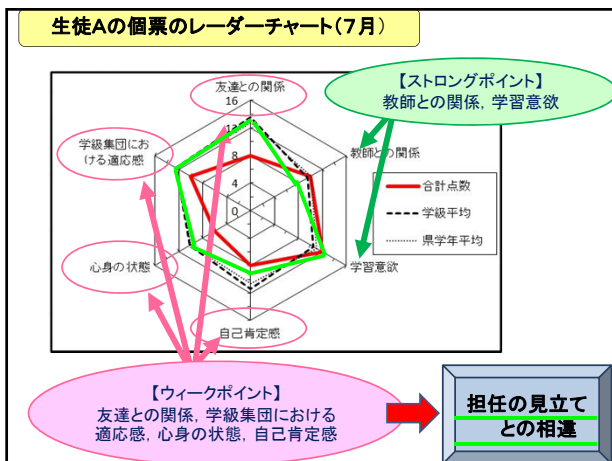
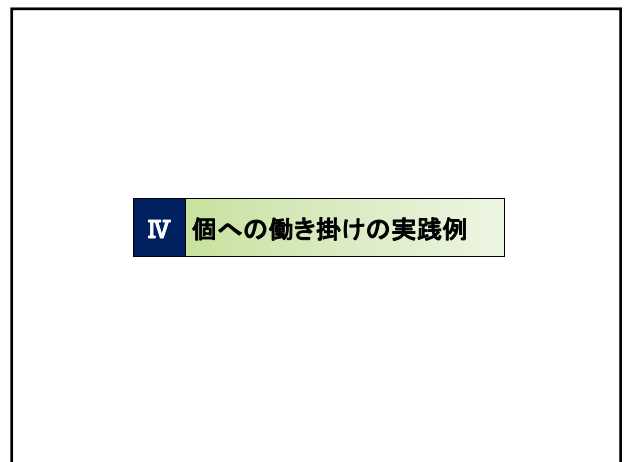
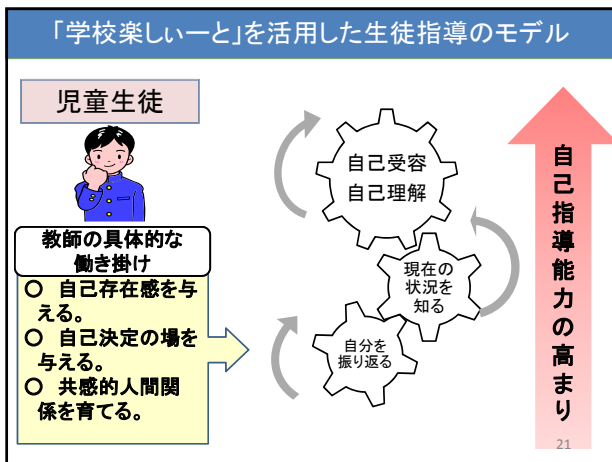
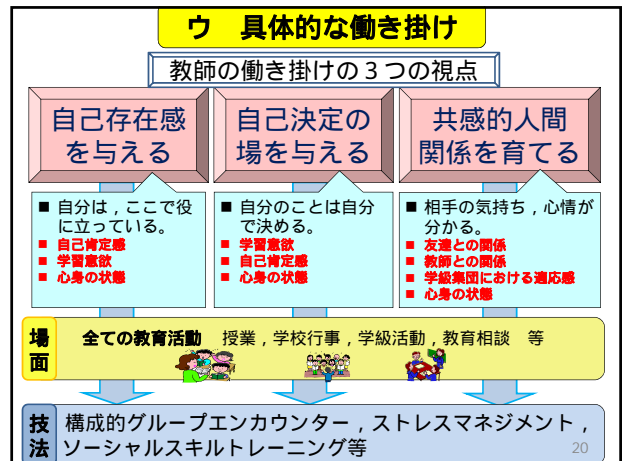
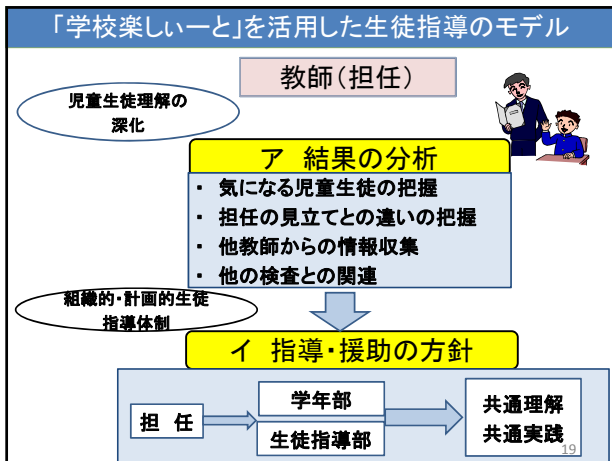
平成23年11月～12月

14



Ⅲ 「学校楽しいと」を活用した生徒指導のモデル





指導・援助の方針と具体的な働き掛け

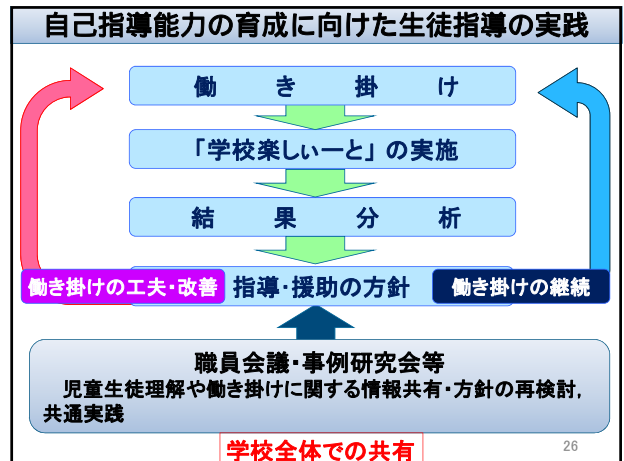
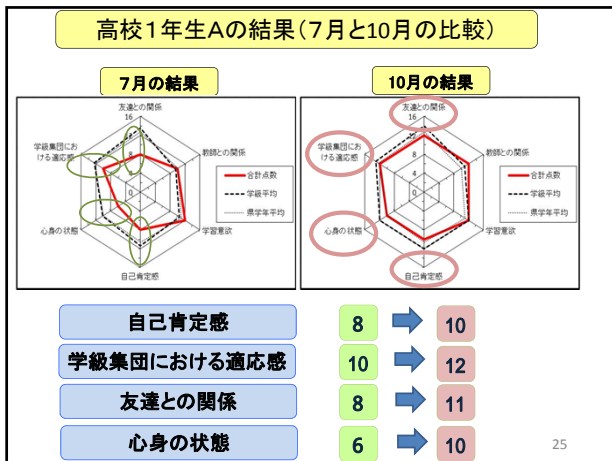
担任の方針

Aとの教育相談を実施

要因の見立て

- 進路選択について保護者との意見の対立が原因で、心身の状態が不安定になり、他の観点に影響を与えている。

対応	ポイント
本人との教育相談	本人の思いを十分に聞き出し、自分で決める事の大切さに気付かせる。
保護者との教育相談	本人の考えを尊重しながら関わることを保護者へ働き掛ける。
教育活動での声掛け	本人へ肯定的な言葉掛けをする。
情報の共有化	他の教師への情報提供と対応の依頼をする。



V 成果と課題

成果と課題

成果

- 自己指導能力育成のための
- 「学校楽しいーと」の提供
- 「学校楽しいーと」による本県の平均値の提示
- 「学校楽しいーと」を活用した働き掛けの具体例の提供

課題

- △ 各校種の学校からのデータをより多く収集、蓄積
- △ 「学校楽しいーと」の校種間連携の有効活用